

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077700096
法人名	社会福祉法人 ふたば会
事業所名	グループホームふたば
所在地	福岡県三井郡大刀洗町大字高樋1245-1
自己評価作成日	平成23年9月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月7日	評価結果確定日	平成23年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者との信頼関係を大切にし居心地のよい生活援助を行うと共に、家族との信頼関係も重要視し、家族と職員で利用者の生活を支えていく事がとても大切だと思っている。利用者の健康管理に毎日バイタル測定を行い、いつもと違う小さな気付きを大切にしている。苑庭での野菜作や花の手入れ、またお宮掃除などを利用者と共に実施。職員には認知症の理解や介護技術の向上のため毎月施設内研修を実施。特養との併設である為協力体制は万全であり、夏祭りやクリスマスには近所の方々や小学生を招待し利用者との楽しい時間を共有。その他毎月定期的にボランティアや地域の子供達が来訪し交流を深めている。全職員で地域福祉の向上を目指し、利用者が地域の一人として生きがいをもって自分らしく生活できるホームであるよう、生活支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の中で、地域の災害対策についての話し合いが重ねられ、現在、施設全体が大刀洗町の避難場所として指定されており、災害ボランティアとしての活動も行われる等、法人内外の連携を活かした地域の福祉拠点としての活動に積極的に取り組んでいる。また、子ども会との連携による定期的なお菓子作りの機会や、地域のカラオケ大会への参加、近隣のお宮清掃活動等、入居者の方々や地域住民とのふれあいの機会も多い。日常の暮らしの中では、個別の機能維持や活用に向けて、支援の根拠となる情報収集や家族との連携を図り、心身の活性化につなげる取り組みが行われている。喜怒哀楽や自分らしさを出せる場所であるよう、職員の気づきや観察力を養い、知識や理解を深める取り組みを行いながら、自然体での支援が行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域福祉に貢献し、支え合う仲間である」事を掲げている。当事業所を地域の中に違和感無く溶け込ませ、地域での生活が広がっていくように取り組んでいる。	法人理念のもとに、基本理念・職員理念が掲げられ、立ち返る場所として位置付け、スタッフ会議等にて確認する機会を持っている。職員個々が業務としてだけでなく、社会人として、また、地域の一員として、支えあう関係作りへの一歩を踏み出せるようにとの思いも込められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りは地域住民が多数参加。地域行事に多数参加。近隣の保育園と交流会を行い、クリスマス会に小学生を招待。地域と一緒に宮掃除を実施。地域カラオケ会来訪。定期的に小学生とお菓子作り実施	月に1、2回のお宮掃除や、地域のカラオケ大会に、入居者の方々とともに参加し、地域の方との交流を深めている。また、2ヶ月に1回、子ども会との連携を図り、「キッズふれあい」として子供達とお菓子作りを行っており、地域にとって気軽に立ち寄ってもらえる場所となるよう取り組んでいる。町の災害ボランティアとして、また、災害時の指定避難場所として、施設全体での取り組みがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトサポーター講師や社協依頼により高校生や一般に支援方法を講義し、事業所の力を地域に活かせるようにしている。地域住民より介護支援相談あり		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実践について報告している。多くの質問やアドバイスがあり地域の認知症ケア等も話し合い、施設内にとどまらず地域の中での認知症ケアに役立てサービス向上に活かしている	区長・老人会長・民生委員・ボランティア代表等、多くの地域住民の参加を得ており、家族、行政担当者とともに活発な意見交換が行われ、それぞれの立場からの情報発信が行われている。会議の内容については、家族会の中でも報告が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課担当者とは日常的に情報交換を行い情報交換している。福祉職員との関係も深く、双方共に相談やアドバイスを行っている。	施設全体として、大刀洗町の災害ボランティアとしての活動や、避難場所としての指定を受ける等、行政との協働関係が構築されている。管理者は、認知症キャラバン・メイトとしての活動や、研修講師を務める等、行政と連携する機会も多い。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より身体拘束をしないケアを行ってきた。管理者及び全職員が拘束しないケアが当たり前と理解し実践している。玄関及非常口は夜間20:00～翌朝7:00は安全確保の為施錠するがそれ以外は開放している	内外の研修に参加し、職員間の共有認識を図っている。また、家族にもリスクや弊害を説明し、入居者個々人の行動を抑制しない方針を共有している。その背景には、個々の行動の意味や潜在的ニーズの把握、リスクに関するアセスメント実施、職員の観察力や見守り力の育成等、様々な取り組みが行われており、何よりも入居者、家族との信頼関係を大切にしている。エレベーターや階段、ベランダ出入口についても、使用制限や施錠は行われていない。	

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部・外部研修を行うとともに、職員がお互いに注意できるような環境づくりに努めている。メディアでの報道があればその都度話し合い虐待防止に繋げる		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する知識を理解し活かせるようにしている。内外研修で学んだら必ず他の職員に伝え、わからないことはいつでも職員間で話し合うようにしている。現在権利擁護利用者はいない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、入居時等に、その存在や意義についてを説明している。職員は、内外の研修にて学ぶ機会を持ち、理解を深めている。利用者の方々にとって必要とされるその他の制度活用や申請についても支援を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項の説明を行った後、利用者や家族からの希望や質問に対し十分話し合い、納得し安心してもらえるよう援助している。退所時も家族に不安が無いように援助している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において意見を聞き、検討改善している。意見箱を設置している。また、推進会議に参加して頂き家族の言葉として反映している。	家族が意見を言い難いことを理解し、コミュニケーションの機会を大切に捉え、積極的に意見の収集に努めている。年1回、多数の参加を得ている家族会の開催や、家族同士の関係構築に向けた配慮、利用者、家族、それぞれを対象とするアンケート調査等、意見や要望を表出できる機会を確保している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常気軽に話せる環境を作ると同時に、毎月スタッフ会議にて、意見や提案を聞いて反映している。職員が意見や提案をしやすいように送りノート活用し、職員全員が運営参加している事を意識している。	毎月のスタッフミーティングや日常の業務の中で、意見を言いやすい雰囲気作りに努め、全体での検討を行いながら、ハード面・ソフト面での運営への反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な場面においてアドバイスし、職員のレベルにあった研修を受けられるようにしている。意欲低下に繋がらないよう職員の努力や実績を評価している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢や性別等条件は無く、適正を考慮して採用される。事業所管理者が仕事は楽しく生き活きとすることをモットーとしているため、職員が能力發揮でき自己実現できるように配慮している。	法人としての採用となり、年齢や性別、経験等による排除は行っていない。人柄や適正を重視し、無資格者であっても、働きながらの資格取得をサポートしている。また、経験やスキルに応じて、交代で外部研修へ参加できるよう配慮を行っている。希望休の取得に向けた配慮、休憩時間の確保等、働きやすい職場環境づくりに努めている。	

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の勉強会やカンファレンス時、人権を尊重したケアが出来るよう人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	基本理念として、利用者の基本的人権の保障を掲げており、浸透、共有に努めている。外部研修への参加や伝達、内部での勉強会を通じて、様々な視点から人権教育、啓発に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の能力や向上心を大切にし内外の研修を受ける機会を確保している。スキルアップのための資格取得にも援助している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の別グループホームとは交流が活発である。また別法人のグループホームとも交流あり相互向上を図っている。医師及介護事業者を中心とした勉強会に管理者・職員は参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴と受容を基本とし、話をよく聞き安心して生活できるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や希望を良く聞くように話し合いを行っている。利用者の気持ちを代弁し、職員から相談する事もある。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をケアプランに反映し、必要なサービスを見極め安心される援助を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、同じものを食べたりして家族同様に生活している。洗濯物たたみや野菜作り等、本人の出来る事を行う事で喜びを感じてもらい、日常利用者とよく話をし共感しながら生活している。		

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で職員の考え・その他の事を家族と話し信頼関係を築き、本人にとってよい方向を双方で話し合い、ケアプラン説明時には状況を詳しく説明している。また、家族会・行事等により家族と職員がより理解しあう機会を作っている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若いときより入会している会の方が面会に来られたり会の活動や会費支払いを家族に連絡し関係性が断ち切れないようにしている。その他近所のなじみのある場所には積極的に出かけている。	家族の協力も得ながら、友人、知人等、これまでの関係性について情報収集を行い、職員間での共有を図るとともに、その関係性を結びなおす等の働きかけも行われている。お孫さんの結婚式参加へ向けた式場とのやり取りや付き添い、図書館の利用、こだわりの嗜好品を買いに片道30分程の散歩に出かけたりと、馴染みの関係性の継続に向けた積極的な支援が行われている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中リビングで過ごされており、気のあった方と同じ椅子に腰掛けられたり、一緒に手伝いをするなど孤立しないよう対応している。色々な場面で職員が間に入り良い関係性を保てるように対応をしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス変更や退所された家族の方が、花や野菜を持って利用者や職員に会い来られる。会いに来やすい関係性や雰囲気をつくり相談支援に心がけてる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や日常の中での話から本人の希望や意向を汲み取る。出来るだけ本人の思いを大切に、認知症で困難な場合は職員間で話し合い本人本位に考え対応している。基本的に受容を行う。	生活暦やライフスタイル等、これまでの暮らしについての情報収集を行い、職員間で共有を図っている。日常の暮らしの中で表出された思いや意向に向き合い、その実現に向けた取り組みも行われている。表出が困難な場合や、職員の思い込みとならないよう、行動の意味や潜在するニーズについても、本人本位の検討に努めている。利用者アンケートを実施している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントにより、家族から聞き取りを行い、本人からも聞きだせるよう意識的に会話をし、それをケース記録に残すと同時にスタッフ間で情報交換し共有している。		

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定の実施。また、日常の中から本人が出来ることを発見するよう職員とともに色々なことを行っている。性格・生活歴・ADL・認知症の状態など総合的に把握するよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を観察し、本人や家族の希望・職員・医師の意見を踏まえケアプランの作成を行っている。	本人、家族の思いやニーズをもとに、職員間での検討を行い、心身の機能保持や活用につなげる生活リハビリに積極的に取り組んでいる。介護計画には、本人、家族の役割が具体的に示された、個性ある内容が確認できる。必要時には、医師や看護師を交えた担当者会議を実施している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日本人の状態や生活内容を記録。状態変化についてはカンファレンスを行い介護計画変更を行なう。情報共有のため連絡ノートを活用し、こまめな対応が出来るようにしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個別に対応できるように支援している。入院時は面会に行く時は洗濯物の取替えも行っている。通院送迎はもとより、盆正月に家族希望により車椅子の方を自宅まで送迎すると、とても喜ばれる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の祭りや映画祭に参加。地区のカラオケ会も毎年出場させていただき利用者も喜ばれている。菓子作り教室を開き地域の子供達と隔月交流を楽しみにしてある		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、在宅からのかかりつけ医師にて医療管理してもらっている。その他の方は事業所の協力病院へ受診支援している。	本人、家族の希望による、これまでのかかりつけ医との関係性を大切にしている。また、日々の暮らしの中での変化や気づきを大切に捉え、医療機関や訪問看護師、併設施設看護師との連携を図りながら、早期対応につなげている。受診前後の家族との情報共有や、かかりつけ医師にホームでの暮らしの状況を見学して頂く等、関係者間での連携を密にしている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が定期的に訪問し利用者の健康状態の把握をしている。職員が異常・小さな変化を感じた時はすぐに相談している。また、併設の特養看護師も医療相談や簡単な処置対応等に協力している。		

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特別な場合を除き、連携病院に入院されているため、こまめに面会に行き、病院の医師・看護師・ソーシャルワーカーなどと情報交換している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会において、家族の関心の高いテーマなので、ターミナルケアについては毎回話し合いを行っている。実際ターミナル期にある方については家族の意見意向を良く理解するように支援してゆくのか話し合っている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時の説明や状況の変化に応じた意向確認が行われており、医療機関や併設施設との連携も含めた話し合いを行っている。緩和ケアに関する外部研修に参加している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署において救急救命やAEDの講習を職員全員が受けている。毎年職員研修において、初期対応や救急蘇生を行い知識や技術を取得している。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養と合同で年4回定期的に避難訓練を実施。夜間は法人宿直及夜勤者や近隣住民と協力体制あり。誘導灯や避難経路図有り。消防へ自動通報システム有り。また町より地域避難場所に指定されている。	併設施設との昼夜を想定した合同訓練が、定期的に実施されており、地域の方には、避難時の見守りを願っている。運営推進会議の中で、地域の災害対策についての検討が続けられ、施設全体として大刀洗町の避難場所として指定されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち声かけをしている。また入浴や排泄に関しても配慮して、利用者より職員のほうが注意している。個人情報の記録は鍵つき書庫に保管している。	喜怒哀楽や、その人らしさを表出できる場面を大切に捉えている。プライバシーに関する内部研修を実施し、羞恥心や私生活についての意識を高めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が納得できる様な声かけを行い、安心して自分を表現できる環境にしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人異なるので、職員が察知して安心して生活できるように援助している。		

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	判断が出来て買物できる方は、職員が付き添い買物している。散髪は外部委託で美容師さんが月一回来訪。その他希望者へは白髪染めの支援を職員がしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は、その方の能力にあわせ配膳・盛り付け・お膳や茶碗拭きを手伝われる。おやつや行事食も利用者と共に作る。食事は音楽を流すなどして、会話を楽しみながら食事がしやすい雰囲気を作っている。	敷地内で収穫された野菜が食卓に上ることもあり、ゆっくりとした食事風景とともに、食後の余韻も楽しんでいる。また、引き膳や食器洗い等への自発的な参加の場面も見られた。2ヶ月ごとの「キッズふれあい」では、子供会との連携を図り、小学生児童たちとお菓子作りを楽しむ機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分量のチェックを実施。利用者の嚥下力・咀嚼力に合わせた食事形態を提供し、同じものを楽しく美味しく食べてもらい、必要時は代替食品やゼリー等の補助食品を活用。栄養士による献立管理		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りに対応し、口腔ケアの必要な方には程度にあわせた援助方法にて支援し、ケアプランに取り込んでいる。職員全員が口腔ケアの大切さを認識している。訪問歯科を利用。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中トイレでの排泄を基本にして、利用者一人一人の排泄パターンや習慣・能力を活かして排泄ケアの援助をしている。立位困難者には2名対応にてトイレで排泄援助実施。	心身の状況を全体的に捉え、排泄行動のプロセスをチェックしながら、機能維持、排泄の自立に向けた支援を行っている。個別の排泄パターンや間隔、サインの把握に努め、職員間で共有しながら、さりげないトイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣・病歴・内服副作用等を理解したうえで便秘予防として医師へ相談するとともに運動・腹部マッサージ・水分摂取・牛乳・バナナ・オリーブオイル・どくだみ・センナ等利用者個人状態に合わせた援助を提供		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴の機会を設け、声掛けをしながら入浴援助をしている。入浴拒否をされる方には納得して入浴されるように声掛け援助行なう。入浴されると「気持ち良かった」という声が聞かれる。	日曜日以外は、毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟に対応している。また、個別の状況や疾患に応じて、介護計画の中にも位置づけ、支援を行っている	

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にして、夜間より良い睡眠が取れるように配慮している。室温調節や寝具調節なども行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントにて病状及内服確認し内容の把握。受診後に内服変更があれば送りノートや介護記録・業務日誌等に記入し情報共有を図る。お薬ノート・処方箋を職員がすぐに確認できる所に保管している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出大好き・カラオケや歌が好きの方・野菜作りが得意な方・編み物が好き・掃除洗濯たたみ等お手伝いを喜ばれる方などそれぞれの楽しみ喜びを見つけて、気分転換・自立支援・生きがいに繋げている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・ドライブなどその日の要望や状況に沿って外出支援をし、季節毎の花見・公園・畑・ショッピングセンターでの買い物等支援し気分転換を図っている。また家族に外出協力を働きかけ自宅への送迎等行っている。	敷地内やご近所の畑の野菜の生育状況を眺めながら外気浴を行ったり、周辺の散歩、日常的な買い物(食材・備品・嗜好品等)に出かけている。また、個別の関係性やライフスタイルの継続に向けた支援としても、図書館の利用や嗜好品の買い物、併設施設との交流、冠婚葬祭への出席等、社会参加の場面を支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は自分で所持されていますが、管理できない方は事業所が管理し買い物や外出時に自分でお金を使えるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、素早く職員が援助を行い家族と話をしてもらっている。不穏時及び面会の間隔があいたときなども、職員が状況説明した後、利用者本人と家族と電話で交流していただいている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が入るため、遮光カーテンを使用し、まぶし過ぎないように配慮している。リビングや食堂には花を飾って季節を感じてもらおうようにしている。大きなカレンダーにて、今日の日を毎日確認されている。	リビング・ダイニングに加え、16畳程の和室スペースや、明るく開放的な広い廊下等、ゆとりある生活空間がある。ソファの設置や、ベランダにもベンチを配する等、その時々に応じたくつろぎの場所を確保している。季節の飾りつけはさりげなく、廊下では自発的な歩行訓練も行われている。	

福岡県 グループホーム ふたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングを活用し、利用者がそれぞれお気に入りの場所にて過ごされている。廊下の椅子では、歩行訓練の疲れたとき座ったり、日向ぼっこをされている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されているたんすや引き出し等、本人のなじみの物や、お気に入りの物をおかされている。写真やカレンダーを壁に貼り落ち着ける雰囲気工夫している。	各居室には、手洗いやクローゼットが備え付けられている。自宅より、筆筒や戸棚、テーブル等が持ち込まれ、また、家族の写真が貼られていたり、安心できる環境作りへの配慮が行われている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下にはバーを設置し安全安楽に行動できる。居室は名前を掲げトイレに「トイレ」と記入し利用者が場所を理解しやすいようにしている。廊下にソファを置き歩行時も休憩できる配慮あり		